

世の中に、 悦びの循環を。

中華食材を通じて豊かさを広げる、 悦びのクリエイター。

赤い缶にほほ笑むおじさんの絵が描かれた人気中華スープの素「味覇(ウェイバァー)」。一度はお店で見かけたことや、自宅の冷蔵庫に入っているという人も多いのでは?この「味覇」でおなじみの会社・廣記商行の会長である鮑さんは、追大の卒業生です。

華僑の3世として神戸の中津街・南京町で生まれた鮑さん。両親が中華食材の卸業で商売をしているのを見て育ち、高校卒業後に手伝い始めました。しかし、やはり大学へ行きたいとの思いから勉強をし直し、追大に入学。家業の手伝いと学業との二足のわらじをはいて、多忙な毎日を通しました。

「だから、大学での思い出が…正直少ないんですよ」と笑う鮑さん。「配達担当も持っていたので、会社のトラックで大学へ行行って、終わったらそのまま配達に行くような毎日でした。その姿をゼミの言美先生が見てくださっていたのか、とてもよくしていただきました」と当時をふり返ります。

卒業後は再び家業に打ち込み、36歳で社長就任。中国での貿易商談会に毎年参加して輸入業務も行っていたので、貿易会社「バンオーシャン」を設立しました。さらにレストラン事業や中華菓子・月餅の製造も手がけるようになり、現在の廣記商行グループへと会社の規模を広げました。

「社員が増えていくと、視点や価値観を共有することが大切だと感じていました」と鮑さん。そこで「悦びの創造」という企業理念を掲げました。最終的には社員とその家族の悦びを体现する、そのためには会社が発展繁栄し続けなければならない、そのためにはお客様から強く必要とされる存在でなければいけないし、お客様が繁盛しなければ自分たちの繁盛もない。みんなの悦びを体现するために、自分たちは動くのだと。

この社内での視点や価値観の共有について、廣記商行の社長を受け継いだ山下さんは「会長はよく当て字をするんです。仕事も『志事』と。何事にも、意味や目的を持ちなさいと言われる。無駄な仕事は『死事』だと。自分たちが目指すのは『志事』ですと。しっかり自分で考えて動く『考動』をしないともよく言われます。分かりやすい言葉で示されると社員も理解しやすく、理念をみんなで大切にしていけるように思います」と鮑さんのことを話します。

そんな鮑さんの今後目指すものは、「少しでもみなさんのお役に立てて、悦びの創造ができればと思います。お客様から必要とされ続ける強い会社を目指して、自分の名前のおり『悦びファースト』で、悦びを創造し続ける存在でありたいですね」。鮑さんの目指すものは悦びの循環を生んで、きっと今後もたくさん笑顔の花を咲かせるに違いありません。



鮑 悦初 さん
Bao Yue Chu

1977年卒業(8期生)
経済学部 経営学科

株式会社廣記商行 取締役会長
株式会社バンオーシャン 代表取締役
株式会社和昌 代表取締役社長

<http://koukishoko.co.jp>

株式会社 廣記商行



追大での学びを糧に、自分の世界を広げて、羽ばたいて。



追大の卒業生は、いろんな場で活躍をしている人がたくさんいます。学んだことを糧に自分の魅力や実力を重ね、活躍の場を広げ、チャンスをつかみ取る。壁に出会ってもうまく乗り越えながら、楽しむことも忘れない。このように生き生きと輝く卒業生の中から5人の方に、卒業後の活躍の様子をうかがいました。



津軽三味線の音をファッションブルにパワフルに、世界へ届けるミュージシャン。

「つい先日ヨーロッパから帰って来たところで。とても楽しかったです。」とびきりの笑顔で話し始めた佐山さんは、関西では珍しい津軽三味線の奏者。話す時の柔らかい雰囲気とは違って、三味線を弾き始めると、力強い凛とした表情に変わります。そのパワフルなバチさばきで奏でられる音は、何とも熱く、力強く、まるでジャニーズロック。時には繊細で優しい音も出る。「この音が好きなんです。とにかく弾いていると楽しくて」

そう語る佐山さんは、祖母が趣味で弾いていたのをきっかけに、8歳から三味線を習い始め、9歳で初舞台に立ちました。祖母のアドバイスで、ストリートライブも度々行っていたそう。めきめきと腕を上げ、10歳からは津軽三味線世界大会に出場。数々の賞を受賞し、2013年の追大在学中、B級部門（4年以上の経験者のクラス）で優勝を果たしました。

重たい三味線をハイヒールを履いて運ぶほど、普段はおしゃれを楽しむ女の子。そんな佐山さんに追大での思い出を尋ねると「とても楽しかったです。友達とたくさんおしゃべりして、毎日遊んでいたことも含めてのキャンパスライフでした。大学も応援してくれているんなステージに立たせてもらえたことは、場数を踏むいい経験になりました」とのこと。自分の卒業式でも演奏したり、「学生MVP」にも選出されました。

「社会学で世の中や物事をいろんな角度から

見ることを学んだおかげで、自分のこといろんな角度から見られるようになって、自分のステージも、この枠に留まっていはいけない、次へ行ってみよう！と自然に思っただけです。そこで、4年生の時には、ニューヨーク、ラスベガス、ロサンゼルス、アメリカ三都市グリラライブツアーを実行。さらに冒険のヨーロッパへ行ったというのは、この次なる自分のステージへとチャレンジするための第一歩でした。マルタを拠点に、イタリア、フランス、スコットランド、ロンドンを三味線片手に訪問。自分でアピールをして演奏場所を開拓しながら、ステージを重ねていきました。「ノーブランチで行ったけど、不安や楽しみで、ストリートライブも度々行っていたそう。めきめきと腕を上げ、10歳からは津軽三味線世界大会に出場。数々の賞を受賞し、2013年の追大在学中、B級部門（4年以上の経験者のクラス）で優勝を果たしました。」

いまやってみたいことを聞くと「もう一度海外へ行きたいですね。もっとたくさんの世界の人の三味線の音を聞いてもらいたくて。国内でもお声をかけていただければ行きますし、いろんなところで演奏したいです」とのこと。華やかで迫力のある佐山さんの三味線の音が世界中の人の心に届くのは、そう遠い未来ではないのかもしれません。

佐山 千尋 さん
Chihiro Sayama

2016年卒業（47期生）
社会学部 社会学科
津軽三味線奏者

① 佐山千尋



追大での学びとつながりを活かして華やかな世界で人生を楽しむ、ビジネスマン。

「学生時代は、とても楽しかったですね」と追大での生活を懐かしむ、大槻さん。「井上京子先生のゼミで、よくアンケートをとってデータ分析をしていた思い出があります。他にはマスコミ研究会で部長をしたり、校友会の文化部の役員もさせてもらったり。お酒もよく飲みました（笑）」。

マスコミ研究会では、みんなでわいわい楽しく過ごすことも多かったようですが、遊ぶ時は遊んで、やる時はやるというのが、当時の流儀。合宿をしてドラマやテレビCM、広告を、テーマを決めて真剣に制作をしたり、上映会を開いたり発表したりしていたそうです。このメリハリのあるスタイルで大学生生活を謳歌していた大槻さんたちのことを、部活の後輩の三原ナミさんは「憧れの時代の先輩でした。クリエイティブな作品を撮られていたし、やる時はしっかりやる方たちだったのでかっこ良かったです」と教えてくれました。

そんな大槻さんはゼミのテーマでもあった青年心理学に興味があり、教育関係の仕事に就きたいと思っていて出会ったのが、小学館集英社プロダクションでした。エデュケーション事業とメディア事業とを展開している会社で、入社後まずはエデュケーション事業で英語教室の担当をしました。「この教室事業で子どもたちとふれ合う時など、心理学科で学んだことが活かされました。その後就いたキャラクタービジネス

の仕事では、広告代理店や出版社と仕事をすることが多かったため、マスコミ研究会でかじっていた専門用語などが活かして役に立ちました。長年携わったというキャラクタービジネスの仕事は「漫画やアニメの作品をグッズや広告に活用してもらう仕事を通して、玩具や文具・雑貨メーカーや広告会社の方々、また、海外のエージェントの方とも知り合うことができ、とても貴重な経験になりました。担当だった『釣りバカ日誌』の作画者・北見けんいち先生とは、今でも毎年お誕生日会を一緒に過ごしています」とのこと。華やかで充実していた様子がうかがえます。

この後大槻さんは再びエデュケーション事業で幼児教室の仕事に携わることになりました。「ここで、昨年のLinkAに登場されていたミキハウスの木村力造先輩に、偶然出会ったんですよ。いま、一緒に校友会の東京支部を盛り上げよう頑張っているところ。校友会のつながりは、これまで出会うことのなかった先輩たちとも出会えて刺激を受けたりするので、メンバーを拡げたいですね」

現在は総務人事事で活躍している大槻さん。やる時はやる、楽しむ時はしっかり楽しむ。そんな大槻さんの周りに、老若男女の追大者が集い、楽しく盛り上がることに期待が高まります。

大槻 育宏 さん
Ikui Hiroaki

1993年卒業（24期生）
文学部 心理学科

株式会社小学館集英社プロダクション 総務人事部 部長
株式会社ミキハウスアンド小学館プロダクション 取締役
http://www.shopro.co.jp/

② 大槻育宏



追大で学んだ理論を活かしたことで会社を生き残らせた、ゼネラリスト。

「遊びも大事だから、楽しくやらなきゃね」と、タブレットに保存されていたたくさんの写真を見せつけた鹿島さん。そこに写っているのは、レース用のカッコいい車。「これね、先日サーキットで走ってきた私の車。いま、追大からの友人と一緒に、サーキットで走ることが楽しみでね」。そう言う鹿島さんの御年は67歳！昨年、車のA級ライセンスを取得されたそうで、一昨年にはバイクの大型免許を取得されたんだとか。

今この趣味を楽しめるようになったのは、それまでの勤務を越えたからこそ。鹿島さんは大学卒業後にカガミクリスタルへ入社。慣れない東京の本社勤務で建築部材を扱う部署へ配属になり、商品の企画から生産予定管理、販売までを毎日一生懸命やり遂げました。その後営業職に就き、百貨店担当の責任者として過ごす日々は、多忙を極めていたそうです。カガミクリスタルの品々は、日本における最高級クリスタルと称されるほど美しく、宮内庁や大使館、首相官邸でも使われる逸品。「平成天皇即位の礼や現皇太子様のご成婚の儀の晩餐会で使われるガラス食器で、担当として皇居へうかがう大変光栄な仕事もさせてもらえました」と当時をふり返ります。

長年の営業職での実績が評価され、突然総務部長に任命された鹿島さん。その時の使命は、経費削減をして利益を出すこと。「営業職時代、売上げがよくならない原因として、何がムダなのかが見えていた。だからそこを改善したら利益が

出たんですよ。リーマンショックの時も厳しい状況だったけど、やり方など徹底的に見直して改善し、利益の出る会社に変えたんです」

この時役立ったというのが、大学時代に学んだ経済学。「『資産＝負債＋資本』という基本理論を大学で習ったことがすごく参考になりました。この理論が分かっていたから、会社で損益が分かった。赤字、黒字を算出する時に、こうした利益が出ると思ったら読めたのは、大学での学びのおかげです」

こうして鹿島さんは使命を果たし、会社に利益をもたらしました。これがさらに評価され、総務部長から異例の社長へと出世。「社長になったら24時間365日いつでも仕事だと思わないといけないし、いつでも対応できるようにしておかないといけない。だから夜中に起きて携帯でメールをチェックするクセは、今でも残っているんです」まさか社長になると思っていなかったという鹿島さん。現在は退職し、実家に残っている文化財になり得るほどの古文書などを、調べたり整理することに精を出しています。

「これからは健康に気を付けて、趣味を充実させたい。まずは車のレースに出たいなあ」。そう笑いが話す鹿島さん目の前には、チャレンジし続ける気持ちとともに、明るく道が広がっているようです。

鹿島 市右衛 さん
Ichie Kashima

1974年卒業（5期生）
経済学部 経営学科

株式会社カガミクリスタル株式会社 前代表取締役社長
http://www.kagami.jp

③ 鹿島市右衛



少年の頃の興味や大学での学びから、様々な場で活躍するナチュラリスト。

幼い頃の興味やワクワクする楽しい記憶。これがその後の人生に影響を与えることも少なくありません。藻川さんも、その1人。ほとんどの男の子が一度は通るであろう虫捕りに夢中になった楽しい記憶が残り、中学、高校と生物部で活動。大学では少し違うところにも目を向けてみよう、と、社会学科に入学し、地理歴史研究会へ入りました。

「大学ではこの部活での思い出が強いですが、フィールドワークで瀬戸内海の小さな島へ行き、地理や歴史を研究しました。フェリーに乗り遅れると島へ戻れなくなったり、近所の人が寄り合って歓迎してくれたり。今まで出会ったことがなかった島の生活を目の当たりにして、びっくりもしたし、興味深かったです。貴重な経験をさせてもらいました」

大学卒業後は、ゼミの杉本先生の勧めもあって、そのまま追大の職員に。藻川さんはその後、37年間勤めました。「この大学に出会って、学んだと分かったり。先輩や若い人となつたのは大きい。物事を柔軟に考えるようになったり、いろんな切り口から物事を見られるようになったり。とてもありがたい出会いでした」

退職後、縁あって2014年からは伊丹市昆虫館の職員に。「子どもを連れてイベントに参加するなどよく昆虫館に行っていた中で、2004年に友の会ができるという時に、立ち上げの準備をいろいろ手伝ったんです。そこから友の会の

運営委員もしていたので、長年の付き合いになりました。現在は友の会の運営業務全般や教育普及活動の一環を担ったり、イベントの開催やサポートなどを行っているそう。追大での授業も毎年受け持っているんだとか。「幼い頃に楽しんだ昆虫への思い出も大切にしながら、趣味と実益を兼ねて好きでなところで働かせてもらっているなと思います。楽しいですね」と、藻川さん。ナチュラリストとしても活動をしていて、自然観察指導員として勉強会や観察会に参加したり、とある企業が、社会貢献活動の一環として発行している冊子に、関西ゆかりの有識者メンバーの1人として毎年寄稿したり。「昆虫も景色も、自然が好きで、知らないことを知っていくのが楽しいんです」

また追大職員の頃から20数年、このLinkAを発行している校友会の役員としても活動している藻川さん。「意外なところで卒業生と出会ったり、よく行っていた飲み屋の店主さんが卒業生だと分かったり。先輩や若い人となつたのは、この校友会に関わっていたからこそ。もっと多くの人も、校友会の活動と一緒に楽しんでもらえたらと思います」

興味あることは一生勉強していくべきだということを大学で学んだという藻川さん。少年の頃からの興味を大切に活動し続ける藻川さんのこれからの、期待が高まります。

藻川 芳彦 さん
Yoshihiko Mogawa

1977年卒業（8期生）
文学部 社会学科

伊丹市昆虫館 職員／（公財）日本自然保護協会 自然観察指導員
追手門学院大学校友会理事（総務委員会委員長）
http://www.itakon.com

④ 伊丹市昆虫館



これからつながる新入社員

この春新社会人となり校友会に入会する追大生の中から6人を、抱負とともにご紹介します。
追大を卒業して新なる出発をする新社会人たちの未来を、みんなで応援しましょう！



草川百花

経営学部マーケティング学科
内定先企業：住友生命保険相互会社
趣 味：映画鑑賞(好きな映画は「ラ・ラ・ランド」)
特 技：水泳



奥村優一

経済学部経済学科
内定先企業：株式会社十川ゴム
趣 味：旅行、読書(漫画がなえ)
特 技：野球、水泳



嶋岡菜摘

地域創造学部地域創造学科
内定先企業：八尾市役所
趣 味：ライブに行くこと
特 技：卓球(大学卓球部)



大野 翔

経営学部マーケティング学科
内定先企業：株式会社おやつカンパニー
趣 味：スポーツ観戦、釣り、料理
特 技：スポーツ選手をよく知っている



浦和奈菜美

経営学部マーケティング学科
内定先企業：大阪シティ信用金庫
趣 味：ピアノ
特 技：誰とでもすぐに打解けることができる



和田あゆみ

経済学部経済学科
内定先企業：北おおさか信用金庫
趣 味：旅行・お菓子作り
特 技：ピアノ・ソフトボール



(2018年2月現在)

第2回 LinkAの会

大学校友会 副会長 生川紳一郎

7月3日(火)大阪城スクエにてLinkAの会を開催いたしました。

第1回はLinkAに執筆していただいた方々に一同にお集まりいただくことで、初めて会われる方もいらっしゃいました。今回は本来の主旨である追大つながって委員会(追手門学院大学・校友会の交流活性化プロジェクト)の説明と、その交遊会誌LinkA(輪華)つながって(Link)、輪になり華となる名前の由来に因んで、今後会員の交流により経験と知識を共に共有することで、お互いに資質を高め、その結果、会員の親睦、会の発展、社会貢献、学校の知名度の向上、異業種(名刺)交換会により企業マッチング(自社のプレゼン)、女性同士なら肩をはらないで参加できるようなカルチャー(文化)マッチング、又アカデミックな講義の開催(大学とのコラボ)等…実行しようとなりました。この会

は一過性のものではなく、半永久的で将来性があるのです。そのためにも積極的に広報・書記・会計・総務を同窓会支援委員が支援いたします。さらに将来は現役学生も気楽に参加出来ることで(就職キャリアに情報を送る等)魅力ある会にしていきたいと思います。参加の方一人ひとりの協力にて、発信して行くことで大きく化ける会になります。さらにこの会に参加出来ることが「ステイタス」となるようところがけて行こうと参加者で決定しました。

今回は、西上(通天閣社長)さんの協力にて第3回を開催いたしますので、是非HP、会報を御覧ください。



交遊誌・ホームページ掲載希望者募集中(掲載対象) 国内外を問わず、追大卒業生で、校友会会員であること (ジャンル) ○グルメ(飲食・お菓子)○旅行(ホテル・旅館・旅行代理店)○住まい(不動産・住宅・相談)○医療・福祉・介護・保険 ○学校・予備校・塾・カルチャースクール○美容院・エステサロン○卸・製造など (掲載料) 無料 (ご注意) 内容などにより校友会の承認が得られない場合、掲載いたしなかる場合もあります。予めご了承ください。また、届け出の連絡が取れない場合(例えば電話が通じないなど)、閉店などが認められた場合には掲載を中止させていただきます。(掲載申し込み) 校友会ホームページからの申し込みに限りますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

登録募集中!! 「誰どこ何してるシステム」

<http://otemon.org./daredoko/>

「誰どこ何してるシステム」とは、追手門学院大学校友会が運営する会社やお店を幅広くご紹介しているサイトです。ご近所の校友のお店や会社なども見つけていただけます。追手門学院大学の校友だけへの特典が付くという嬉しい情報もあります。皆様、どうぞご登録をお願いします。



編集後記

LinkA創刊3号を無事に発刊することができました。今回より「追大つながって委員会」から引き継ぎ広報委員会からの発行となりました。今回もお忙しい中、取材にご協力いただきました方々に心よりお礼申し上げます。各分野で大活躍されている「追手門の人間国宝」ともいふべき卒業生にスポットを当て、大学生活の経験や学んだことを社会に出られてから、仕事や趣味の世界で生かし、前向きに実践されている姿を紹介しています。これらの活躍は、多くの校友会会員や在学生、入学希望者にとっても輝いて生きる力となると信じています。今回取材に立ち会わせていただき、5名の方々から多くのことを学ぶことが出来ました。この交遊誌をもとに「LinkAのつどい」では多くの卒業生が集い、ネットワークづくりを構築し「追手門の輪」を広げたいと思います。卒業生の中にはまだまだ様々な分野で活躍されている方がおられます。皆様方のお知り合いの「追手門の人間国宝」さんをご紹介いただければ幸いです。(広報委員会 官浪伸次)

今回のLinkAの編集にご尽力いただきました。追大つながって委員会担当の清水一朗様がお亡くなりになりました。謹んでご冥福をお祈りいたします。



■発行・編集
追手門学院大学校友会
〒540-0008 大阪市中央区大手前1-3-20 追手門学院大阪城スクエア
TEL:06-6943-8400 FAX:06-6943-8401
URL: <http://ogu-koyukai.com> E-mail: info@ogu-koyukai.com

2019年3月1日 発行